

会 議 録				
平成 21 年度第 2 回 社会教育委員の会議	日 時	平成 21 年 5 月 20 日 (水) 午前 9 時 30 分～11 時 30 分	場 所	小金井市役所第二庁舎 601 会議室
事務局	小金井市教育委員会生涯学習課			
出 席 者	委 員	井土、伊藤、浦野、倉持、小林、武田、彦坂、本川 各委員 (欠席) 田中、田尻各委員		
	その他	渡辺生涯学習部長、尾崎生涯学習課長、林スポーツ振興担当課長、 田中図書館長、大関公民館長		
	事務局	木村生涯学習係主事、		
傍聴の可否	◎可 ・ 一部不可 ・ 不可		傍聴者数	0 人
傍聴不可・一部不可の場合の理由				
次 第				
1. 報告事項				
(1) 教育委員との懇談会について				
(2) 社会教育関係各委員の改選について				
① 第 25 期社会教育委員の改選について				
② 第 11 期図書館協議会委員の改選について				
③ 第 30 期公民館運営審議会委員の改選について				
(3) 平成 20 年度放課後子ども教育の報告について				
(4) 第 14 回東京国際スリーデーマーチの報告について				
(5) 第 2 次小金井市子ども読書活動推進計画の策定について				
(6) 図書館危機管理マニュアルの作成について				
(7) 図書館の特別休館について				
(8) 第 20 期公民館企画実行委員の補充選出について				
(9) 平成 21 年度東京都公民館連絡協議会について				
(10) その他				
2. 協議事項				
(1) 平成 21 年度社会教育関係団体への補助金交付について				
(2) 第 11 期小金井市図書館協議会委員の推薦について				
(3) 平成 21 年度小委員会について				
(4) その他				
[田中議長欠席のため、井土副議長が議長を務めた。]				
1. 報告事項				
(1) 教育委員との懇談会について (伊藤委員)				

5月12日に教育委員との懇談会を行った。当日の出席者は、教育長を含め教育委員は5名、社会教育委員は6名。自己紹介の後、社会教育委員の活動報告として第2次推進計画策定を中心とした話があった。その後、社会教育委員の懸案事項ということで、情報センター、市民活動センターの設置、各団体と横のつながりを深めていくことの必要性が話された。教育長は、今後、「科学の祭典」を小金井の特色のひとつとしていきたいと言っていた。最後に、渡辺部長から、平成19年1月に提言された、地域教育会議に基づいた形を一步進め、今年は学校支援を中心とするような形でスタートさせていきたいという話があった。

(浦野委員)

小金井市地域教育会議の発展、広がりとして、今年度は学校支援地域会議を1校計画中であるというお話があったが、これについてももう少し詳しく説明いただきたい。小金井市地域教育会議が、学校支援地域会議に移っていくと理解してよいか。

(尾崎生涯学習課長)

ただいまの学校支援地域本部の進捗であるが、今年度、試行的に1校、実行本部を立ち上げてやっていこうと、昨年アンケートをとり、小学校から2校、中学校から2校、前向きな結果が出たので、5月に入ってヒアリングを行った。今、実際にやっているボランティア活動の組織、活動内容、学校の状況等も見て、その中から1校を選考していきたい。

(渡辺生涯学習部長)

学校支援地域本部というのは、国の事業で、教員の負荷軽減を図るというのが大きな目的になっており、今のところ学校支援地域本部は、補助金がつくのが3年だということである。その後は不明で、今年で2年目であるのであと残り1年。地域教育会議は、今後継続的にやっていくというスパンだと思うので、足がかりにはなるが、必ずしも一致はしない。

(2) 社会教育関係各委員の改選について

① 第25期社会教育委員の改選について

(尾崎生涯学習課長)

現在の第24期小金井市社会教育委員の任期が、平成21年9月8日をもって満了することに伴い、第25期の社会教育委員を選出する。5月1日に、社会教育関係団体、小中学校校長会、東京学芸大学、体育協会等に推薦依頼の通知を出した。5月20日が提出期限となっており、5月22日には、社会教育登録団体の推薦分の選考会議を開催し、3団体を決定する。市民公募については、6月以降の市報に掲載し、6月26日が、申込書と論文の提出期限、6月30日に一次選考を行い、7月17日に二次選考、面接を行う予定である。最終的な決定は8月上旬ぐらいを予定。8月の下旬には議案の提出、9月の第1回目の会議で委嘱状の交付をしたい。

② 第11期図書館協議会委員の改選について

(田中図書館長)

流れは社会教育委員の会議と同じ。ただ、図書館は、改選期間が約1カ月遅いので、公募委員の公表、委嘱状の交付について、1カ月程遅らせている。

③ 第30期公民館運営審議会委員の改選について

(大関公民館長)

第29期の公運審の副委員長を務めていた田頭委員が、このたび市議会議員に当選されたので、4月5日付けの退任届けを受理した。欠員補充については、要綱上、前任者の在任期間が1年以上ある場合には置くことができる規定であるので、9月8日の任期までは、9人の委員構成となる。

第30期の公運審の委員の委嘱日程であるが、社会教育委員と同じ流れで、9月25日の審議会で、委嘱状の交付を予定している。

(3) 平成20年度放課後子ども教室の報告について

(尾崎生涯学習課長)

平成20年度は合計で628回実施している。有償のスタッフが学習アドバイザー510人、安全管理員2,353人、合計2,863人。無償のスタッフは、1,614人の方にお手伝いをいただいた。参加人数は児童・生徒が2万2,482人、その他を含めた合計は2万6,408人。平成19年度の1万8,715人と比較して、7,693人の増。詳細については一覧表をごらんいただきたい。今年度に入り、前原小でも平日の放課後、校庭遊びをしようとして実行委員会の立ち上げに向けて準備中。本町小も今年度に入り実行委員会を立ち上げ、自立する形になる。南小は、校庭遊びを中心に工作等、週2回ぐらい実施をし、軌道に乗っている。四小は今、月に1回だが、組織的にまとまってきた状況である。

(井土副議長)

教室内容について、たくさんやっているところと、読書教室だけというところがあるが、これは学校とか家庭環境とかを考えてのことか。

(尾崎生涯学習課長)

地域的な環境、学校の環境によって、若干取り組み方が違ってきている。保護者が先頭になって、地域の方も含めた子ども対象の取り組みを実施している学校もあり、学校自体は子どもに対する取り組みはしているということもある。

(4) 第14回東京国際スリーデーマーチの報告について

(林スポーツ振興担当課長)

第14回東京国際スリーデーマーチを、5月3、4、5日の3日間の日程で開催した。参加人数は、総合計2万2,554人で、前年より3,534人の減。中学生ボランティアは、各中学校に協力いただき、全市立中学校から、3日間述べ164人の参加。ボランティアの内容は、受付や荷物預かり所での補助、スタート、ゴールでのチ

ェックカードへのスタンプ押し、コースの誘導など。また、武蔵小金井駅、東小金井駅から会場までの案内は、市内のスポーツ団体等に協力いただき、3日間で合計27人が参加。4月26日には、参加者へ配付する物品の封入ボランティアを57人にやっていただいた。例年、狭い道もコースになっており、時間帯によっては参加者で塞いでしまうという苦情がある。これについては、引き続き来年に向けて改善していきたい。

(小林委員)

ボランティアの人数が、昨年から比べると減っている。学校別ボランティア人数はわかるか。昨年は高校生ボランティアも述べ10人の参加があったと思うが、今回はいかがだったのか。

(林スポーツ振興担当課長)

ボランティアについては、昨年までは時間帯を分け、午前と午後どちらか片方でもよいということで募集していた。1日やってもらったほうが、お願いしやすいということで、今年は午前8時から午後4時までの時間帯。昨年は190人近く応募があったが、30人弱。学校別の人数は小金井公園に近い学校のほうが多く、遠い学校のほうが少ない傾向がある。高校生は、一昨年、小金井工業から授業の一環で参加したいということで申し出があり、1年生全員で約200人の参加があった。昨年は前年の参加者から希望があり、ボランティアの参加があったが、今年はそのような申し出がなかった。申し込み等なく個人的に手伝いに来てくれた高校生が1人いたが、一般に募集したということではないので、報告の人数には入れていない。

(5) 第2次小金井市子ども読書活動推進計画の策定について

(田中図書館長)

読書活動推進を図るため、小金井市子ども読書活動推進計画を平成16年3月に策定し、5カ年計画として推進してきた。この計画が平成20年で終了したので、引き続き、第2次計画を策定することにした。昨年7月に関連10課により第2次小金井市子ども読書活動推進計画庁内検討委員会、および、その下部組織である作業部会を設置し、作業部会を中心に計画を策定してきた。作業部会では、計8回の審議をし、その間、図書館協議会委員からの意見聴取、読書関係市民団体説明会を2回、平成21年3月15日から4月15日までパブリックコメントを実施した。パブリックコメントについては、2団体から41件の意見をいただいた。これらの素案に対する意見を庁内検討委員会で検討、再度調整しまとめたものを平成21年度の第5回教育委員会に提出し、承認された。平成21年度から25年度までの5カ年の計画になるが、今後はこの計画に沿って、子ども読書活動推進に努めていく。

(6) 図書館危機管理マニュアルの作成について

(田中図書館長)

図書館では、日本図書館協会の図書館経営委員会危機安全管理特別検討チームにより、2004年に、「利用者と職員のための図書館の危機安全管理作成マニュアル」が作られ、各地の図書館もこれにならって作成に取りかかっている。近隣市では、調布市立図書館が、危機管理マニュアルや、実際に起きた事例をもとにしたヒヤリ・ハット集などを作成している。本市の図書館においても、火災や、地震、不審者侵入などに際して、あわてずに適切に対応するために、日ごろからの心構えとしてこうした危機管理マニュアルが必要であると考え作成した。職員については、熟読して緊急時に備えるとともに、窓口に配備して活用を図りたい。なお、小金井警察署にも危機管理マニュアルの作成を届け出ており、警察官による警察官立ち入り所として認められているので、図書館の1階の入口にその旨の掲示をしている。不審者による事故などを未然に防止したい。

(井土副議長)

実際には、何か事件、事故があったか。

(田中図書館長)

過去には、2階の児童室で痴漢めいたことがあった。図書館の中で寝ていて、なかなか起きない方とか、中でうろうろされている方が見受けられる。

(浦野委員)

AEDを設けているということで、操作の研修などは職員に定期的にされているのか。また、小中学生が不審者に遭遇したときに、図書館に駆け込むことが今まで何回かあった。そういったものの対応については何かマニュアルがあるのか。

(田中図書館長)

AEDについては、図書館に限らず、市役所に勤めている職員については、AEDの研修が義務づけられている。図書館職員については、全員、AEDの研修は受けている。また、このマニュアルをつくった背景は、例えば児童室において、お子さんのところに不審者、つきまとい等があった場合のために、職員等がそばに行ってみ張ったり、見守ったりといったことを想定している。図書館への駆け込みについては考えていなかったの、そういった場合にどうするか考えたい。

(渡辺生涯学習部長)

今回、図書館の危機マニュアルを作成したが、他にも所管している施設がたくさんある。これらについて、順次、作成次第報告を申し上げる。

(7) 図書館の特別休館について

(田中図書館長)

5月19日から7月3日にかけて、図書館2階の児童室の床の張り替え工事を実施している。その関係上、本や書架などを移動しているので参考資料室等が使えない。よって、5月18日から7月3日は2階すべてが閉室となっている。6月25日から7月3日にかけては、隔年行っている図書館特別休館で、本の蔵書点検を行うため全

館休館となる。

(8) 第20期公民館企画実行委員の補充選出について

(大関公民館長)

公民館では、市民参加を活発にするため、企画実行委員制度があり、現在、各分館に6名、合計30名の委員が事業の企画と運営に当たっている。このたび、貫井南分館の1人の委員から、一身上の都合により3月31日をもって退任届けが提出され、受理した。これにより、6月1日の市報で市民公募による補充選出を行う。6月15日に本館で説明会を行い、6月19日午後5時まで、推薦、立候補を受けつけている。6月23日には、貫井南分館にて、候補者調整会を行う予定。

(9) 平成21年度東京都公民館連絡協議会について

(大関公民館長)

4月15日に、多摩市の永山公民館において、平成21年度の東京都公民館連絡協議会定期総会が開催された。今年度の都公連の副会長市を小金井市が務めることになり、公民館研究大会の事務局市も小金井市となっているので、皆様には今後、ご協力をお願いすることもあるかと思う。

(10) その他

- ・平成21年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会定期総会について

(浦野委員)

4月18日に清瀬市児童センターのころっぽくるホールで、平成21年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会の定期総会が行われた。小金井市からは、田中議長、井土副議長、本川委員、尾崎課長と浦野の5人が出席した。前半は定期総会で議事はすべて承認された。21年度の統一テーマは、「地域の特色を生かす社会教育、世代を超えて学び合うまちづくり」となった。21年度の会長市は東久留米市、第5ブロックの幹事市は狛江市。後半は社会教育研究会で、統一テーマに沿って、明治大学のカウンセラー原田千恵子氏が「青少年期の諸問題、我々の世代に問いかけるもの。カウンセラーから見た地域社会に果たす役割」という講演をした。主に学生を対象にカウンセラーをしている方なのでこの年代に限った講演だったが、今、大学生では統合失調症、うつ病、アスペルガーといった障害を持った学生がカウンセリングによくくるが、そのような人を排除するのではなく、共存する社会を目指すことが必要なのではないか、ノーマライゼーションを目指していかなければいけないのではないかという話であった。小中学校においては特別支援教育ということで、保護者にはこういった話が浸透しているような気がするが、これから大学生、社会人についての特別支援が大切になってくるのではないか。

・三者懇談会について

(井土副議長)

3月27日の午後1時から2時45分まで、公民館本館学習室で三者懇談会を行った。自己紹介の後、意見交換、話し合いをした。公民館運営審議会も、社会教育委員も、図書館協議会もそれぞれの活動をしているが、三者が一緒になって何かをするということはない。1年に一遍の会合では、なかなか横の連絡はないので、これからもう少し1年に2～3度、会合を開いたらどうかという話があった。

・資料の差し替えについて

(渡辺生涯学習部長)

第1回の社会教育委員の会議で提出した「平成20年度陳情・請願採択一覧」に、一部欠落があったので、今回、差替版を資料として出している。追加した部分は、再下段の20陳情第42号「図書館の開館時間を遅くとも朝9時からとし、夜間開館も拡大していただくことを求める陳情書」。陳情の本体についても、資料として出しているので、差し替えと追加をお願いする。

2. 協議事項

(1) 平成21年度社会教育関係団体への補助金交付について

(尾崎生涯学習課長)

平成21年度社会教育関係団体補助金の交付について申請件数が6件あった。補助対象となるのは、小金井市社会教育関係団体登録要綱の第2条の規定に基づき、小金井市社会教育関係団体として1年以上の実績を持ち、構成員の2分の1以上の者が市内の在住、在勤または在学している団体。補助対象となる事業は、原則として社会教育を主たる目的とし、かつ、一般市民を対象にした事業。1団体につき年間1事業とし、5回までの補助を限度としている。補助の対象となる経費であるが、報奨費、消耗品費、印刷製本費、役務費、使用料及び賃借料。補助金の交付額は、予算の範囲内において補助対象経費の2分の1を限度としている。以上のような要件となっていることから、申請書及び添付書類を審査したところ、事業の目的、内容が適切であり、金額の算定にも誤りが認められないため、別紙のとおり6件を交付決定することとしたい。については、小金井市社会教育関係団体補助金交付要綱第8条の規定に基づき、社会教育委員の会議で意見を聞くことになっているので、意見があれば伺いたい。

(井土副議長)

これは限度額は決まっているのか。

(尾崎生涯学習課長)

1回の申請で3万円が限度。交付が5回までであるので、6年ぐらい前から始めて、5年を経過している団体はかなり多くなっている。この6団体の中でも、5団体ぐらいは今年5回目の補助金の交付で、来年はさらに減ってくると考えられる。基本的に

は、社会教育委員の会議で、補助金制度の見直しを行い、5回を限度にあとは団体の自立を促すことになっている。

[補助金申請団体の申請についてはすべて承認された。]

(2) 第11期小金井市図書館協議会委員の推薦について

(田中図書館長)

第11期の小金井市図書館協議会委員の改選が行われる。10名の委員の内訳が、小中学校長の推薦が1名、学識経験者が4名、市民公募の方が3名、社会教育団体から1名、残り1名は社会教育委員からの推薦となっているので、この1名について推薦いただきたい。

[引き続き浦野委員を推薦することに決まった。]

(3) 平成21年度小委員会について

(井土副議長)

議題は決まっていないが、小委員会は開催することになっていたかと思う。

(本川委員)

ネットワークづくりを構築しようという話が出て、第5回のブロック研修会でもやってみたので、そういうものの構築を小委員会でしていくのはどうか。9月に社会教育委員の会議の2期目が始まり、継続性がなくなるので、改選後スタートラインにして3月までの間に実施すればよい。

(倉持委員)

公民館運営審議会、図書館協議会と三者懇談会のように報告をしたり、ネットワークや地域教育会議について話し合いをしたりできたらいいのではないかと。三者懇談会のような場を小委員会をつなぐ形としてやってもいいかと思う。昨年度のブロック研修会の経験から、具体的な目標とか企画みたいなことがあると議論が集約されやすいし、イメージがわきやすい。ただ会議するだけでなく、目安や方向性があるといい。

(彦坂委員)

先回の議題にもあったように、部長が提案した三者懇談会、三者合同会議の開催は、今言ったものにつながると思うが、その後の具体的な進捗はあるか。

(渡辺生涯学習部長)

社会教育委員および公民館運営審議会が9月に、図書館協議会が11月に改選があるので、その後の新委員によって11月中に通常のフリートーク的な三者懇談会を1回開く。それから、翌年の5月ぐらいに、各会議、協議会、審議会の合同で会議を設け、今後年2回ぐらいを継続的に開いたらどうかと公民館運営審議会でも提案をした。公民館運営審議会では、おおむねいいであろうということだが、正式な決定については次回の審議会の中で決めたいということになった。図書館協議会については、5月14日に同じ提案をしたが、幾つかの意見が出されている。1つには、テーマを決め

ないと議論が進みづらいということで、社会教育関係のネットワークづくりというようなテーマでいかがかという投げかけをした。それについて、図書館協議会については図書館に絞り込んだ協議をすべき場で、多少違和感があるという意見もあった。また、社会教育関係団体というが、それは社会教育委員の分野ではないのかというような意見があった。図書館協議会については、開催についてはいいであろうということだった。テーマについては、図書館協議会から新たなテーマがあれば出していただきたいと答えているので、違うものが出てくる可能性がある。現時点では、公民館運営審議会と社会教育委員の会議については、社会教育関係のネットワークづくりというテーマでよいという認識である。

(浦野委員)

先ほど部長が説明されたように、図書館協議会でこの議案が提案されたときに、やはり違和感を覚えるとの意見が多かった。図書館協議会は開催回数も少ない。今、検討しなければいけない議題もあり、ネットワークの構築にかかわる問題を扱うのは難しい。多少温度差があり、同じテーマについて、図書館と一緒に取り組むのはなかなか難しいのではないか。

(渡辺生涯学習部長)

やる前にいろんなことを考えるより、まずやってみることが大事だろう。図書館協議会でも、三者会議をやることには反対はなかったのも、テーマは絞らないでフリートークから始めることになるかもしれないが、とりあえずはこの線で進め、図書館協議会の理解が得られれば、今のテーマで、理解が得られなければ、またフリートークから始めてもよい。あまりかたくなに考える必要はないだろう。

以上